

大津企業景況調査報告書

(第43回)

平成20年10月～12月期 実績

平成21年 1月～ 3月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成20年10月～12月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業100社にFAX方式による調査

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
建設業	20社	19社	95.0%
製造業	10社	10社	100.0%
卸売業	10社	10社	100.0%
小売業	30社	30社	100.0%
サービス業	30社	30社	100.0%
合計	100社	99社	99.0%

3. 調査期間

調査対象期間は平成20年10月～12月とし、調査時点は平成20年12月9日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数としてDI指数を採用した。DI指数とはDiffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」のDI指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」のDI指数は、3ヵ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」のDI指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

景況感悪化、10年来の最悪水準にほぼ並ぶ

平成20年10月～12月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は前期に悪化が鮮明になったが、今期はさらに悪化してバブル崩壊後平成10年の日本列島総不況時、平成13年のITバブル崩壊不況時の最悪水準にほぼ並んだ。その理由は今年9月米欧発の金融危機が実体経済に波及して世界経済が失速、その影響が大津市の製造業、非製造業にもはっきりと表れてきたためと考えられる。特に製造業は平成10年に本調査を開始して以降最悪の水準となり、小売業とサービス業（不動産業を含む）が平成10年以降の不況期と並ぶ最悪の水準となった。

□ 業況判断DI（前年同期比）は最悪水準に並ぶ

「前年同期比でみた業況判断DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前期の▲37から今期▲50と急降下し、バブル崩壊後平成10年の日本列島総不況時の▲51、平成13年のITバブル崩壊不況時の▲55とほぼ最悪水準と並んだ。業種別にみると、製造業が本調査開始以来最悪水準となり、小売業とサービス業（不動産業を含む）が平成10年、13年の不況時と並ぶ最悪の水準となった。

□ 売上DI（前年同期比）も悪化が続く

「前年同期比でみた売上DI(全体)」（「増加」－「減少」）は、前期の▲31から今期▲43とさらに悪化し売上減少が続いている。業種別にみてもすべての業種で売上減少が続いている。

□ 採算DI（前年同期比）も悪化が続く

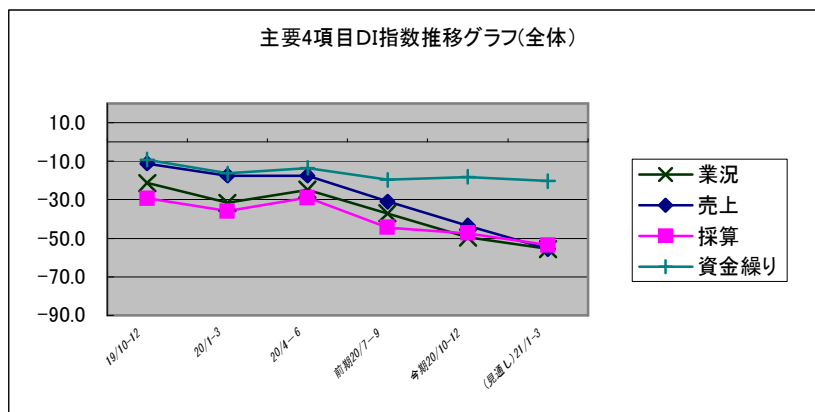
「前年同期比でみた採算（経常利益）DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は前期の▲44から今期▲48にさらに悪化が続いている。「採算（経常利益）水準」指数（「黒字」－「赤字」）も前期▲9から今期▲9と低水準である。業種別にみると、すべての業種で悪化しているが、建設業、卸売業で悪化幅が縮小している。

□ 資金繰りDI（3ヵ月前比）も悪化が続く

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体)」（「好転」－「悪化」）は前期の▲20から今期▲18で悪化が続いている。業種別にみると、すべての業種で悪化が続いている。

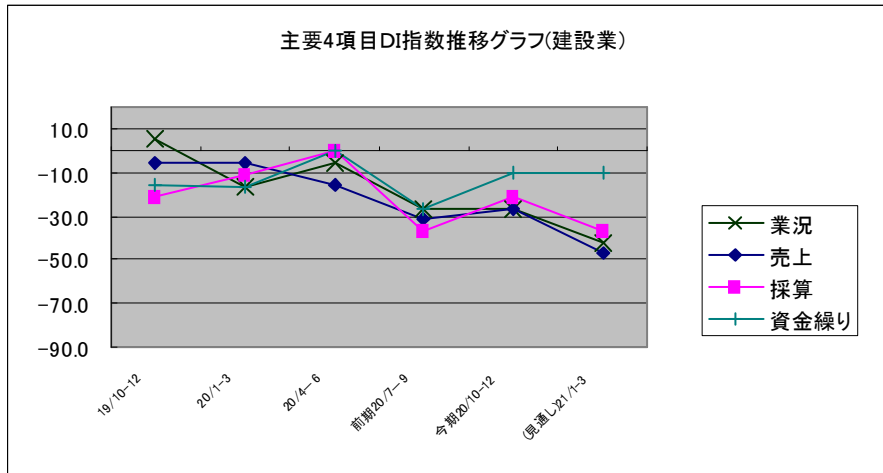
□ 従業員DI（前年同期比）も悪化が続く

「前年同期比でみた従業員DI(全体)」（「不足」－「過剰」）は前期の▲2から今期▲3とやや過剰になっている。業種別にみると、製造業で人員過剰が顕著になっている。建設業、小売業では人員がやや不足している。



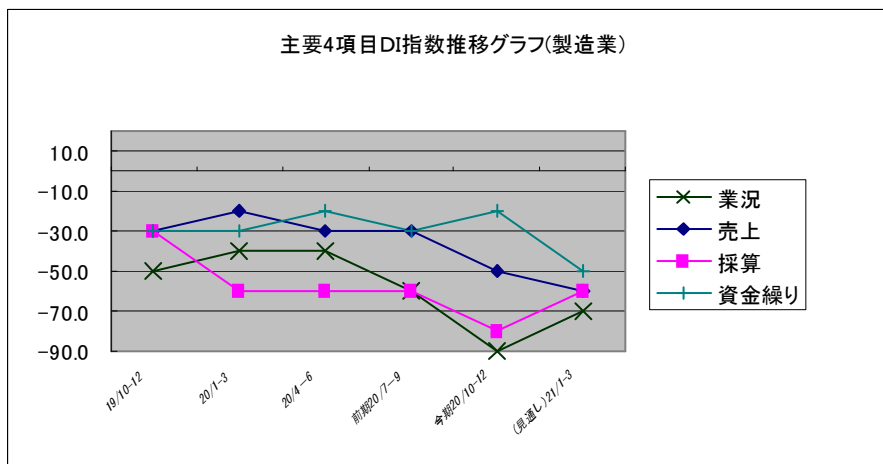
建設業

DI 指数をみると「業況」は前期▲26 から今期▲26 と悪化が続いている。ただし平成 10 年以降の不況期の最悪水準▲60 に比べるとまだその水準にはなっていない。個別指標をみると「売上」は前期の▲32 から今期▲26 と減少が続く、「取引の問合せ」は▲37 から▲21 と減少し続けている。「採算」は▲37 から▲21 と悪化が続いている。「採算水準」は±0(収支トントン)が続いている。「従業員」は+11 とやや不足が続いている。「資金繰り」は▲26 から▲11 と悪化が続いている。



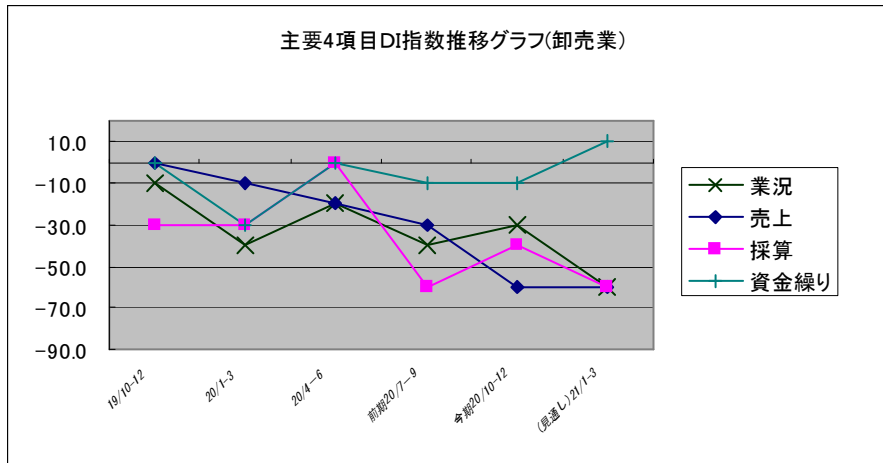
製造業

DI 指数をみると「業況」は前期▲60 が今期▲90 となり平成 10 年以降の不況期の最悪水準▲80 を下回る最悪水準になった。「売上」が前期▲30 から今期▲50 とさらに減少し、「採算」は前期▲60 から今期▲80 とさらに悪化して「採算水準」は前期の+30(黒字)から±0(収支トントン)に悪化した。「従業員」は▲10 から▲50 と過剰感が鮮明になった。「取引の問合せ」も▲40 から▲60 と低調に推移している。「資金繰り」は▲30 から▲20 で悪化が続いている。業況の悪化は大手企業が需要急減で減産、設備投資抑制等を進めているため中小製造業の受注が減少してきているためとみられる。



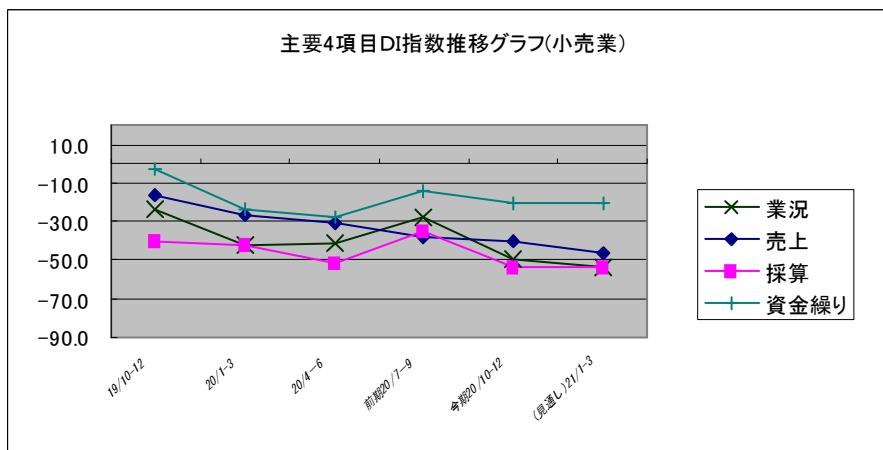
卸売業

DI 指数をみると「業況」は前期の▲40 から今期▲30 と悪化傾向が続いている。ただし平成 10 年以降の不況期の最悪水準▲60 に比べるとまだその水準にはなっていない。「売上」は前期▲30 から今期▲60 とさらに減少し、「取引の問合せ」も▲40 から▲70 と低調に推移している。「採算」は前期▲60 から今期▲40 と悪化が続き、「資金繰り」も▲10 から▲10 と悪化が続いている。「従業員」は前期の▲30 から今期▲10 と過剰が続いている。



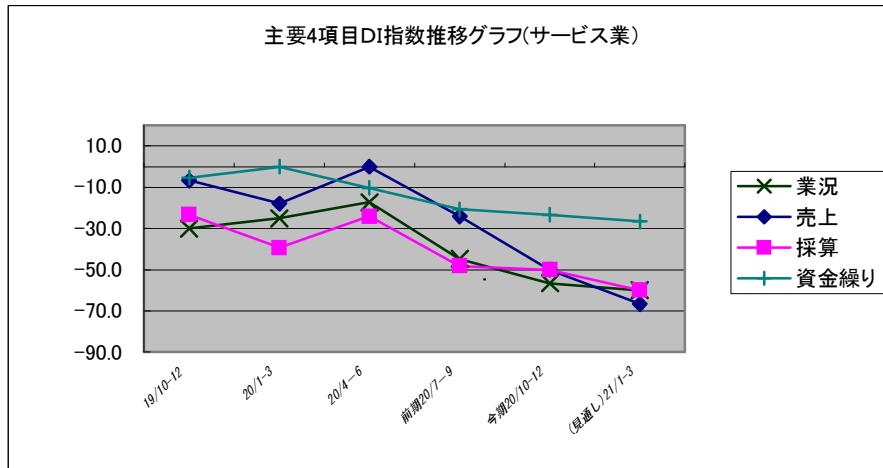
小売業

DI 指数をみると「業況」は前期の▲28 から今期▲50 と急降下し、平成 10 年以降の不況期と並ぶ最悪の水準となった。「売上」は▲38 から▲40 とさらに減少し、「採算」も▲35 から▲53 とさらに悪化した。「取引の問合せ」は▲31 から▲47 とさらに低調になった。「従業員」は▲3 から+3 とやや不足となった。「資金繰り」は▲14 から▲20 と悪化が続いている。業況悪化は、先行き景気悪化を見込んで消費マインドが落ち込んできたこと等が影響しているためとみられる。



サービス業

DI指数をみると「業況」は前期▲45から今期は▲57と急降下し平成10年以降の不況期と並ぶ最悪の水準となった。「売上」は前期▲24から今期▲50と大幅に減少し、「採算」は▲48から▲50と悪化が続いている。「従業員」は+3から±0と人員不足感はなくなった。「資金繰り」は▲21から▲23と悪化が続いている。業況の悪化は、業種に含まれる不動産業の市況が大幅に悪化していることや先行き景気悪化を見込んで消費マインドが落込んできたこと等が影響しているとみられる。



来期の見通しについて、全体の「業況」は今期よりさらに悪化して、平成10年以降の最悪水準▲55と同水準の▲56となる見通しをしている。これは、景気回復時期が見えず、今後の回復には相当の時間を要するという見方が多いためとみられる。「売上」は▲56とさらに減少し、「採算」は▲54とさらに悪化し、「従業員」は▲11と過剰感が高まる。業種別にみるとすべての業種で業況の悪化傾向が続くが、製造業では最悪の悪化度合いがやや縮小する見通しをしている。

来期の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合が前期の26%から今期10%に大幅減少した。製造業では前期の80%が今期40%に減少した。設備投資をする企業の投資内容は生産力増強投資が39%と多く、設備更新投資が31%である。また「今後の景気にかかわらず計画通り投資を行う」とする企業が前期68%あったが、今期46%に減り、「景気動向によって見直す」18%と「見直す」36%を加えると過半数が見直す方向である。設備投資においても先行き不透明のため慎重な動きが強まっている。

(中小企業診断士 田中清行)

(今の経済情勢に対する意見)

今の経済情勢に対する意見を寄せた企業は12社であった。

景況感について

- ・ 前年同期と比較し、売上は増加したが、先行きは不透明。現在の景気が底を打つまでは買い控えが続くように思われる。
- ・ 飲食業は売上増加するも、もう一方の酒類の方の前々繰越赤字によって全体としては非常に困難な現況である。
- ・ 県内全ての業種が消費低迷で薄利多売も出来ず、資金繰りに苦労している。
- ・ 我々のサービス業は(旅行業)世の中が明るくならないと盛り上がらない業界です。
- ・ 平成3年頃のバブル崩壊と異なり純粋な製造業、サービス業(建設不動産業・開発業者等の投機業種を除く)の業績が円高等で弱体化しているのが心配であり、今後の回復には相当の時間を要するものと思われる。
- ・ 取引先の業績に不安(受注している仕事が解約になる事が予想されます。)
- ・ 業況非常に低調で、先の見通し立たず。

雇用について

- ・ 急速に悪化の兆し、雇用情勢の悪化が心配
- ・ 今、企業における派遣社員の人員削減や大学生の就職の内定取り消しひいては、ソニーの大幅なリストラの公表など労働者の雇用問題が世間を騒がせ、労働環境の悪化が進んでいる中、企業の事情も分からないではないが、自分さえよければ良いといった感があるやり方は如何なものかと思う。日本企業の良さであった終身雇用制を見直すべきときが来ているのではないかと思われる。

政府について

- ・ 景気がサブプライムローンから始まり、非常に悪い個人金融資産は高いのに買い控えが起こっている。政府の景気対策を望みます
- ・ とにかく政府のすることがおそい

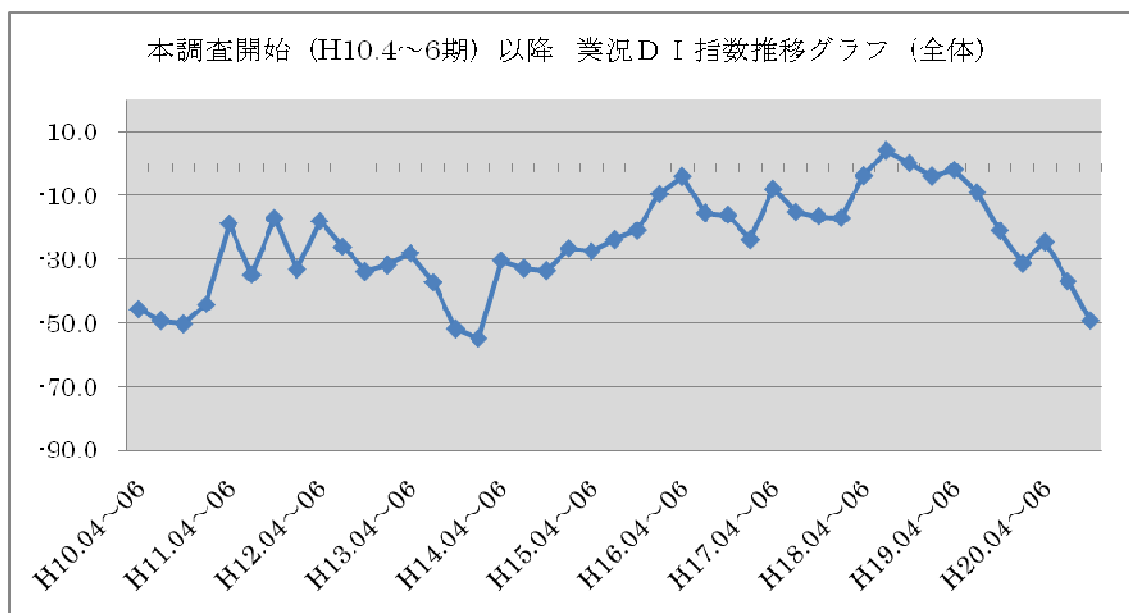
環境対策について

- ・ 環境先進県(市)を標榜されている関係上他地域同業他社と比べ、より以上の環境関係の設備投資や対策が必要なのを県、市の商業政策に携わる方は意識されているのだろうか？

DI指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	10-12月期 動 向	1-3 月期 見通し	10-12月期 動 向	1-3 月期 見通し	10-12月期 動 向	1-3 月期 見通し
全 体	▲ 49.5	▲ 55.6	▲ 43.4	▲ 55.6	▲ 47.5	▲ 53.5
建 設 業	▲ 26.3	▲ 42.1	▲ 26.3	▲ 47.4	▲ 21.1	▲ 36.8
製 造 業	▲ 90.0	▲ 70.0	▲ 50.0	▲ 60.0	▲ 80.0	▲ 60.0
卸 売 業	▲ 30.0	▲ 60.0	▲ 60.0	▲ 60.0	▲ 40.0	▲ 60.0
小 売 業	▲ 50.0	▲ 53.3	▲ 40.0	▲ 46.7	▲ 53.3	▲ 53.3
サービス業	▲ 56.7	▲ 60.0	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 60.0
	昨年の同期との比較		昨年の同期との比較		昨年の同期との比較	
	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	10-12月期 動 向	1-3 月期 見通し	10-12月期 動 向	1-3 月期 見通し	10-12月期 動 向	1-3 月期 見通し
全 体	▲ 9.1	▲ 20.2	▲ 49.5	▲ 50.5	▲ 3.0	▲ 11.1
建 設 業	0.0	▲ 15.8	▲ 21.1	▲ 42.1	10.5	▲ 10.5
製 造 業	0.0	0.0	▲ 60.0	▲ 60.0	▲ 50.0	▲ 40.0
卸 売 業	▲ 10.0	▲ 30.0	▲ 70.0	▲ 70.0	▲ 10.0	▲ 20.0
小 売 業	▲ 30.0	▲ 43.3	▲ 46.7	▲ 43.3	3.3	3.3
サービス業	3.3	▲ 3.3	▲ 60.0	▲ 53.3	0.0	▲ 13.3
	該当期について		該当期について		昨年の同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	10-12期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し
全 体	▲ 18.2	▲ 20.2	▲ 16.2	▲ 19.2	▲ 14.1	▲ 16.2
建 設 業	▲ 10.5	▲ 10.5	▲ 5.3	▲ 10.5	▲ 10.5	▲ 15.8
製 造 業	▲ 20.0	▲ 50.0	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 30.0
卸 売 業	▲ 10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0
小 売 業	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 13.3	▲ 13.3	▲ 10.0	▲ 10.0
サービス業	▲ 23.3	▲ 26.7	▲ 26.7	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 26.7
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	



大津商工会議所

〒520-0806 大津市打出浜2番1号

コラボしが21・9F

TEL 077-511-1501

FAX 077-526-0795

URL <http://www.otsucci.or.jp/>